

令和4年度病害虫発生予察注意報第4号

令和4年8月30日
岐阜県

作物名 果樹（カキ、ナシ、ミカン等）

病害虫名 果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ及びクサギカメムシ）

1 発生地域 美濃地域

2 発生時期 9月上旬以降

3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- (1) 岐阜市則松に設置した予察灯における8月第1半旬から8月第4半旬のチャバネアオカメムシ誘殺数は1508頭（平成796.6頭）と平成の約1.9倍（図1）、ツヤアオカメムシ誘殺数は235頭（平成132.3頭）と平成の約1.8倍であった（図2）。また、美濃加茂市山之上町に設置した予察灯における8月第1半旬から第3半旬のチャバネアオカメムシ誘殺数は222頭（平成117.8頭）と平成の約1.9倍（図3）、クサギカメムシ誘殺数は365頭（平成283.2頭）と平成の1.3倍であった（図4）。
- (2) 8月中旬におけるヒノキ毬果口針鞘数（カメムシの吸汁痕）は、岐阜市秋沢で1果当たり13.7本と、山林からの離脱の目安とされる25本/果に近づいている。
- (3) 岐阜地域において一部のカキ園では、すでに第一世代成虫の飛来が確認されており、今後山林から離脱するカメムシ類がさらに多くなる恐れがある。
- (4) 名古屋地方気象台の1か月予報（8月25日発表）では、気温は平成並～高いと予想されており、本虫の活動に好適な条件が続くため、園内への飛来と果実の吸汁による被害果の発生が懸念される。

5 防除上の注意事項

- (1) 果樹カメムシ類の被害の発生には地域差や園地差があるので、園内へ飛来を確認したら防除を実施する。なお、薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。
- (2) 果樹カメムシ類の飛来は夜温及び湿度が高く、風の弱い日に多くなるので注意する。
- (3) 防除に当たっては、周辺環境、気象条件等に注意し、薬剤の飛散防止に努める。
- (4) 農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。
(<https://pesticide.maff.go.jp/> 農薬登録情報提供システム)

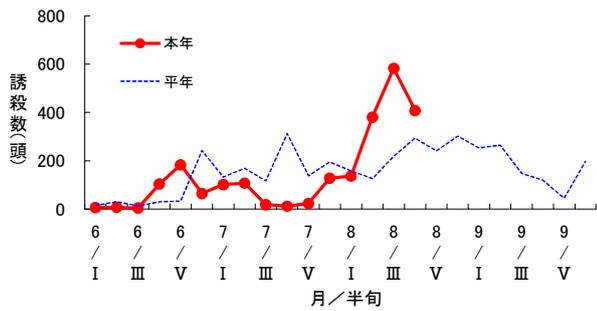


図1 予察灯でのチャバネアオカメムシ誘殺数
(岐阜市則松)

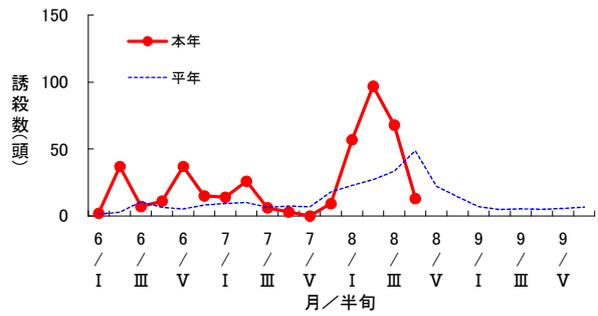


図2 予察灯でのツヤアオカメムシ誘殺数
(岐阜市則松)

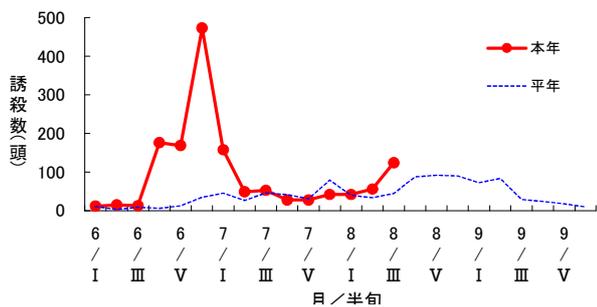


図3 予察灯でのチャバネアオカメムシ誘殺数
(美濃加茂市山之上町)

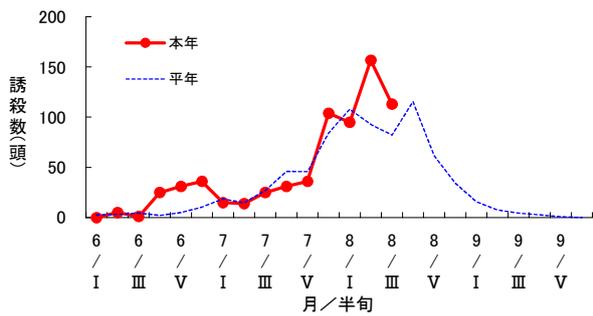


図4 予察灯でのクサギカメムシ誘殺数
(美濃加茂市山之上町)